

鳥取県青少年育成アドバイザー 協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 32号

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会

発行日 2002. 9. 26

編集 芳村恵子

〒680-0002 鳥取市浜坂東 1-10-15

第8回中国・四国ブロック 青少年育成アドバイザー連合会研究集会 第5回実行委員会のご案内

お彼岸を過ぎ、急に朝夕冷え込むようになってきました。後2ヶ月を切り、いよいよ中国・四国研究集会鳥取大会が近づいてきました。25日が申し込み締切日ということで、各県からご参加頂けるという嬉しい便りが続々と届いているところです。

つきましては、下記日程のとおり第5回実行委員会を開催いたします。いろいろご多忙中のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席くださいますようご連絡申し上げます。なお、近日中に鳥取県内の参加申し込み確認を行いますので、お送りする返信はがきにてお知らせください。参加費につきましては、第5回実行委員会時に集めます。実行委員会を欠席される参加者の方は、お手数ですが下記口座までお振込くださいますようお願いいたします。

記

- 1 日時 平成14年10月13日(日)
午後2時～5時
- 2 場所 ふれあい会館

鳥取市扇町21 TEL 0857-21-2266

なお、準備の都合上、欠席の場合は前日までにお知らせください。

TEL/FAX 0859-75-2446 事務局井上まで

*参加費振込先

山陰合同銀行 江府支店(口座番号) 2126783

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会

会長 高橋 譲

* 記念品・名札係りの進行状況

私たちはお土産と名札そしてお花の係りです。すでに決まっていた「一筆箋と封筒のセット」を図柄や鳥取大会を示す表示方法など具体的に決めました。福祉の店「かがやき館」で作成されたもので、ラッピングもして頂き

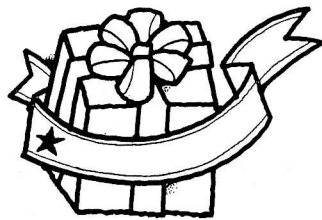
ます。

また、名札は各県の特徴を生かした絵と色で作成しようということになりました。中国・四国9県の産物や観光などを思い出しながらおおよそのことが決まりました。例えば鳥取は、薄緑の梨にしました。他の県はお楽しみにしててください。

おもてなしの本番はきっと緊張しドキドキなのかもしれませんが、こうして仲間が集まってその日のためにあれこれ準備するのは楽しいものです。普段の日常にはない体験がいつそうウキウキさせてくれるのでしょう。

全体の細かなことはまだまだですが、とにかく『段取り8割』、本番に向けて、楽しみながら準備したいと思います。

記念品・名札係り



『平成14年度 中国・四国ブロック
青少年育成アドバイザー研究集会
鳥取県大会』実践発表に向けて

清水 成眞

皆様、お元気でしょうか。本当に暑い夏でした。皆さん今年の夏はいかが過ごされたでしょうか。私は、太鼓の指導者として小学生とあちらこちらに行かせていただき、本当に大変でしたが、とても良い経験をさせていただきました。

さて、いよいよ11月23日・24日に中国四国青少年育成アドバイザー連合会研究集会が鳥取県青少年育成アドバイザー協議会の主催で開催されます。事務局におかれましては、連日連夜、本当に大変なご努力をされておられると思います。

私は、24日に実践発表として「中学校の現場」からということで、発表したいと考えて

います。内容については、中学生の生の声を皆様にお伝えできればいいなあと考えています。

何はともあれ、中国四国青少年育成アドバイザー連合会研究集会在、大成功に開催されますことを心より願っています。当日、私も出来る限りお手伝いしたいと考えております。何とぞ宜しくお願い申し上げます。



「親業との出会い」

西浦 公子

今、私は岩美町ですくすく広場（入園前の保護者と乳幼児の会）にサポーターとして関わっています。そこで、お母さんたちと子ども関係を見ていると、子どもにどう接すればいいかが分からないのでは？と感じるお母さんに出会うことがあります。

育児書にはよく、「子どもに話し掛けましょう」と書いてあります。よちよち歩きの子どもが行く所行く所にずっとついて歩き、「そこはダメ」「そっちに行ってはダメ」「それは危ない」など口うるさく禁止の言葉を言い続けている人もいます。話し掛けるのと禁止の言葉を言い続けるのとは全く違います。

どんな接し方をすれば、子どもが親の言うことを聞いて、素直ないい子に育つのだろうと思いつながら、育児書を読み、講演会を聞きに行っていた時代がありました。しかし、理想論ばかりで具体的にどのように子どもとコミュニケーションを取るのかということは書いてありませんし、講師も話してくれませんでした。「子どもの話を聞きましょう」と言われ、子どもの気持ちや話をよく聞いているつもりでした。

例えば、子どもが玩具の取り合いをして、取られたと言って泣いてきた時、「変わりばんこに使おうね」と躡をしようとし、「今まで使っていたのだから貸してあげんさい」と思いやりを持った優しい子にしようとし、「他の子だって使いたいんだから我慢しんさい」と我慢をさせようなど、子どもの気持ちではなく、親の気持ちや思いを口に出し、押し付けてい

ました。そして、ますます大きな声で泣かれて困ってしまいました。どう関わったらいいのかわからないまま、泣いている子どもを余計に叱ってみたり、ご機嫌を取ってみたり、その日その時の親の気分で接するのだから、子どもは混乱するばかりでした。

そんな時、具体的なコミュニケーションスキルがある「親業」に出会いました。子どもの話や気持ちを聞く「能動的な聞き方」、自分の気持ちや考えを伝える「私メッセージ」、対立した時の解決の仕方「勝負なし法（お互いに自分の欲求を話し合って解決する方法）」があることを知ったのです。

玩具を取られた時、親業では能動的な聞き方をして、取られた悔しい気持ちを聞き、言葉にして返します。「玩具取られて悔しいね」「急に取られてビックリした？」「もっと使いたかったのに、取られたんだね」などの言葉掛けをしますと、不思議に子どもは親が自分の気持ちを分かってくれたと感じ、泣き止みます。感情が落ち着いてくるので、「我慢しようかな」「他の玩具で・・・」など次の行動を考えます。優しさや思いやり・我慢は教えても育つものではありません。自分で納得し身に付けるものです。

これまでに「親は子どもが自立する時の援助者である」「子どもは親の所有物ではない。尊重される一人の人間である。」「子どもは生きる力を持っている」など学びました。

人と人が関わりあって生きているからこそいろんな問題が起きるのです。起きた問題を嘆くのではなく、いかに解決するかを学ぶいいチャンスと捉えていく学びの方法が、親業であり、教えない教育講座だと思っています。

これから青少年を育てる若いお母さん方や、青少年たちに、双方向のコミュニケーションスキルや、安心して子育てが出来る環境を整える学びの場を提供し続けたいと考えています。



編集後記

本番前の緊張と不安があればこそ、成功に向けての準備も一段と綿密に出来るというものです。このドキドキ感も楽しみながら後2ヶ月、チームワーク良く頑張りましょう。